

秋の叙勲 旭日双光章

前町長 遠藤栄作氏受章

令和5年秋の叙勲で旭日双光章を受章した遠藤栄作氏への叙勲伝達式が11月6日(月)、杉妻会館(福島市)にて行われ、内堀雅雄県知事より勲章が手渡されました。



叙勲を受章した遠藤前町長(左から2人目)と妻・政子さん(同3人目)

年6月までの3期12年にわたる、町勢の発展に尽力されました。

東日本大震災時には災害対策本部長として指揮を執り、長年の行政経験より培われた統率力と行動力で、第一小学校の再建などの復旧・復興を着実に進め、進化する鏡石町の礎を築き上げました。

今回の受章を受けて遠藤氏は、「町長に就任して9か月で起こった東日本大震災をはじめ、令和元年の台風による大水害、令和3年4年の地震など、経験したことのない自然災害の対応や、新型コロナウイルス感染症の対応にあたっては、町民のみなさんや、町議会の理解、職員の協力があったことで、より積極的に復旧・復興に取り組むことができました。また、後援会や支持者のみなさんにも支えていただき、感謝しています。」と話していました。



万歳三唱を行う参加者のみなさん

東京かがみいし会 記念式典

東京かがみいし会は、11月25日(土)、東京都の八芳園で総会と設立40周年記念式典を開きました。

式典には、東京かがみいし会の会員と町関係者など104名が参加しました。

「牧場の朝」を斉唱した後、佐藤輝雄会長が、「今後も、鏡石町をふるさととする町内出身者同士の親睦を深めつつ、人と人の関係を大切にしていけることを目指していきたいと思えます。」と挨拶し、木賊正男町長と角田真美町議会議長が祝辞を述べました。

その後は、アニバーサリーイベントとして、株式会社八芳園の井上義則代表取締役社長により「八芳園と鏡石町との取り組みについて」を演題に記念講演が行われました。

記念講演後には、会の軌跡について想いを馳せ、記念品の贈呈が行われました。式典後には、懇親会が行われ、参加者は親睦を深めました。



挨拶をする佐藤輝雄会長



町の特産品を贈呈される新会員の今泉庄治さん

設立40周年 節目祝う

全国障がい者スポーツ大会「燃ゆる感動がごしま大会」

わたなべ そら

渡辺想星選手(フライングディスク) 1位

なかやま けんた

中山健太選手(ポッチャ) 2位

10月28日(土)〜30日(月)に鹿児島県で行われた、特別全国障がい者スポーツ大会「燃ゆる感動がごしま大会」で、渡辺想星選手がフライングディスク競技ディスタンス部門(ディスクの飛距離を競う競技)少年の部で1位、アキュラシィー(直径91・5センチの円形のゴールにディスクを5メートルの距離から投げて、10投中何回通すことができるかを競う競技)では2位に入賞しました。



渡辺想星選手

「今回の大会を終えての感想を教えてください。」

渡辺選手「大会では、より遠くにディスクを投げることができ、54メートル超えという自己記録を更新する結果を出すことができました。鹿児島大会では、桜島からの風が強くて、軽いディスクを投げるのが難しかったです。しかし、風を考えながら落ち着いて投げることができました。ディ



ディスクを投げる渡辺選手

スタンスの部での金メダル獲得は、福島県で初めてだと聞いてとても嬉しかったです。」

「今後の大会での目標を教えてください。」

渡辺選手「私はディスタンスの部門が得意なので、今後は自己記録を、今大会よりもさらに更新できるようにしたいと思っています。60メートル飛ばせるようにすることが目標です。」



中山健太選手

「今回の大会に臨んでの感想を教えてください。」

中山選手「今回の大会では他の県の方々のレベルが非常に高く、驚きました。大会での成績は一勝一敗でしたが、ペアの人とたくさん相談して、作戦を練って試合に臨むことができたことが良かった点だと思っています。また、ロングボールを投げることで、標的であるジャックボールにびつ

たりと近づけることができました。監督をはじめとして沢山の方々に応援していただいたおかげで今回のような成績を修めることができたと思っていますので、とても感謝しています。」

「今後の目標を教えてください。」

中山選手「たくさん練習をして、来年の大会は優勝できるように頑張りたいです。」



カラーボールを投げる中山選手